

サッカー 故郷で再び

東京電力福島第一原発事故を機に現役を引退した女子サッカー・東京電力マリーゼの元選手、大久保(旧姓・森本)華江さん(32)が、約10年のブランクを経て、FCセブレレディース岩手で2度目の現役生活を踏み出した。東北2部リーグを戦うセブレは今春、以前マリーゼも所属したなでしこリーグ参戦を目指すと表明。「昔の仲間と、ピッチで再会したい」と意気込む。(西口大地)

元東電・大久保さん復帰



福島第一原発事故を機に一度現役を退いたが、再びなでしこリーグの舞台を目指す大久保さん(5月17日、久慈市の門前保育園で)

ねて支援物資を配り、謝罪にあたることもあったが、「怒られる中でも『ありがとう』と応援されることもあり、すごくありがたかった」と語る。

■家族の後押し

12年春、結婚を機に退社し、夫の故郷・久慈市に移住した。地元保育園に勤めながら、2人の子どもの出産。子育ても落ち着いてきた一昨年、中学時代から親交があったセブレレディースの因幡晴彦代表と再会し、「もう一回、サッカーをやらないか」と誘われた。若くしてピッチを退いた決断を振り返り、「やっぱりサッカーを続けていればよかったかなと、後悔するところもあった」。家族の後押しもあり、昨季の県リーグで現役復帰を果たした。今年3月のみでしこリーグ参入挑戦発表は、ニュースで知って、びっくりした。自身のSNSにその一報を載せると、学生時代の仲間たちから「頑張れ」「華江ならできる」と激励が寄せられ、覚悟が決まった。

■「明るい話題届ける」

セブレの本拠地・岩手町は久慈市から遠く、平日は市内の高校に通うチームメイトや、9歳の長男、6歳の長女と練習に励む。保育園勤務も続け、体力的には厳しい面もあるが、チームが試合に保育士を帯同して子どもを面倒を見るなど、厚いサポートを受け、「やってやるぞ」というやる気が満ちあふれている」と力を込める。

■12日に帰還困難区域の一部で避難指示が解除される

ことが決まった葛尾村の人たちとは、今でも交流があるという。鮫島さんをはじめ、今も現役で頑張っているマリーゼの仲間が何人もいる。いつか一緒に試合をして、福島の人たちにも明るいニュースを届けたい。新たな目標を原動力に、まだまだピッチを駆け巡る。

「試合いつか昔の仲間と」

■震災後21歳で引退

滝沢市出身の大久保さんは、中学時代にセブレレディースの下部組織でプレイ。卒業後は宮城県の強豪・常盤木学園高校に進むと、快足FWとしてU-19(19歳以下)日本代表候補に選ばれた活躍を見せ、2008年にマリーゼへ加入した。

震災が発生したのは、4年目のシーズン前にした宮崎でのキャンプ初日だった。「誰かが急に『大変だ！』って言い始めて、練習が中断になった。ニュースで東北が被災地だと知り、地元が心配で仕方なかった」。

チームは間もなく東京に戻ったが、勤務先の第一原発や福島県双葉町の寮には帰れず、岩手の実家に身を寄せた。その後、マリーゼは無期限活動休止を決定した。

震災が発生したのは、4年目のシーズン前にした宮崎でのキャンプ初日だった。「誰かが急に『大変だ！』って言い始めて、練習が中断になった。ニュースで東北が被災地だと知り、地元が心配で仕方なかった」。



マリーゼの新加入選手発表の記者会見に臨む大久保(旧姓・森本)さん(2008年、左端)

中小事業者に10万円

盛岡市 コロナ、物価高騰対策 農家なども支援

盛岡市は8日、新型コロナウイルスや、原油などの物価高騰の影響を受けている中小事業者に一律10万円を支給すると発表した。農家にも肥料などの購入費として最大100万円を補助するほか、交通事業者や子育て世帯にも支援金を支給する。関連費用を計上した一般会計補正予算案を開

中小企業は、フリーランスを含めた個人事業者も対象となる。今年1〜6月の燃料代や光熱費が前年同期に比べ10万円以上増加していることが条件。

農家には値上がりする肥料や飼料の購入費を補助する。肥料は購入費の13%を補助。飼料は牛、豚、鶏の生産者が対象で、1トあたり

するバスやタクシー会社に、路線バスと貸し切り観光バスは1台あたり4万円、タクシーは1台あたり5000円を支給。中学生以下の児童手当受給世帯にも子ども1人あたり1万5000円を配布する。

財源には、国の地方創生臨時交付金に加えて、市の財政調整基金から取り崩し

太鼓ドンドン完成

盛岡さんさ



塗装される前の太鼓の鼓面(ひもを通す高松さん(8日、盛岡市)＝広瀬航太郎撮影)

3年ぶりに開催される盛岡さんさ踊り(8月1〜4日)に向け、盛岡市城西町の「高松義雄太鼓店」では、パレードで使われる縮め太鼓の製作がピークを迎えている。

明治末期に創業した同店では、主に神楽など伝統芸能で使われる和太鼓を手がけている。さんさ踊りで使われる縮め太鼓は、胴を2枚の鼓面で挟み、接着せずにひもで締め上げるのが特徴。大会が中止となった昨年は新規の注文がほとんどなかったが、今年は注文が6個入ったという。

8日は半革製の「鏡」と呼ばれる鼓面に穴を開け、ひもを通す作業が行われた。ひもを締めると音が高くなり、緩めると低くなるという。梅雨時には塗装が乾きにくくなるため、急ピッチで作業が進められている。

猿子・雫石町長

(65)は8日、10月18日告示